



第23回日本骨粗鬆症学会
第39回日本骨代謝学会学術集会

イブニングセミナー 3
[LIVE]

日時・会場

10.9 2021
SAT
18:00-19:00

配信会場

第1会場

思春期から閉経期まで 女性のホルモン療法と骨代謝マーカー

Hormone therapy and Bone turnover markers in women from puberty to menopause.

座長

三浦 雅一 先生

北陸大学 薬学部

演者

太田 郁子 先生

倉敷平成病院 婦人科

本学術集会はWEB開催となっております。

第23回日本骨粗鬆症学会

検索

【注意事項】 事前に参加登録が必要です。下記URLより、参加登録をお願いいたします。

<https://site2.convention.co.jp/bone2021/registration/>

共催：第23回日本骨粗鬆症学会／第39回日本骨代謝学会学術集会
ヤマサ醤油株式会社／バックマン・コールター株式会社



思春期から閉経期まで女性のホルモン療法と骨代謝マーカー Hormone therapy and Bone turnover markers in women from puberty to menopause.

太田 郁子 倉敷平成病院 婦人科

近年、骨粗鬆症治療は高齢者に対するビスフォスフォネートや抗スクレロシン抗体、抗RANKL抗体といった骨吸収抑制薬から、早期介入として、骨量減少症の50代に対するSERM剤が普及してきた。50代のSERMによる治療は骨吸収抑制薬とは異なり、骨代謝回転の正常化を機序とした内分泌療法である。さらにTSEC (tissue selective estrogen complex) が提唱され、SERMにエストロゲンを組み合わせ、更年期症状と骨密度低下の両者を合わせて治療する方法は、乳がん・子宮体癌を予防しながらホルモン補充が可能な理想的な閉経後の内分泌療法である。また、エストロゲン依存性疾患における抗エストロゲン療法はエストロゲンの低下をもたらすことがあり、若年の骨密度低下を来すことがある。これらの内分泌療法の効果は個人差があり、骨吸収の抑制にとどまらず、骨代謝回転の正常化が得られているかを短期的・長期的に確認する必要がある。そこで従来から用いられた骨吸収マーカーによる評価ではなく、骨吸収マーカーTRACP-5bと骨形成マーカーBAPを同時に測定することにより、その骨代謝回転率を評価した。我々は閉経後50代の女性へのTSECによる骨への効果と骨代謝マーカーの関係(TRACP-5b/BAP比、以下T/B比)を検討し、その奏効率の指標を算出した。さらに、月経困難症や子宮内膜症において用いられるプロゲスチン・ジエノグストの骨代謝の変化をT/B比で検討した。特に骨伸長期である10歳から13歳、骨量上昇期である14歳から22歳、骨成熟期である24歳までのT/B比を検討することで、骨成長のステージにより骨代謝回転率が大きく異なることが示唆された。近年普及してきたエストロゲン・プロゲスチン配合剤(低用量ピル)は若年の骨成長に影響があり、Peak bone massが低下することが報告されている。これは、骨成長期特有の高い骨代謝回転率を配合された高用量のエストロゲンが抑制することが原因である。これらの薬剤の骨成長への影響をT/B比を用いることで検討し、若年への骨成長を妨げないオーダーメイドの内分泌療法の選択を提案したい。骨量減少症・骨粗鬆症への治療としてもエストロゲン製剤の効果、エストロゲン製剤をはじめとするホルモン療法中の骨代謝の変化を評価する上で、T/B比は有用であり、その活用法について紹介したい。